

大田区の 景況

平成 24 年 1 月～3 月期

調査対象

製造業 165 社 小売業 87 社

調査方法 郵送アンケート調査

調査機関 (株)東京商工リサーチ

景気予報



大きく下降 下降 やや下降 横ばい やや上昇 上昇 大きく上昇

これは、平成 24 年 4 月下旬に調べた平成 24 年 1 月～3 月期区内中小企業の景気動向と、これから先 3 か月（平成 24 年 4 月～6 月期）の予想をまとめたものです。

製 造 業	今 期		<p>製造業全体の主要指標について見ますと、業況は前期同様の厳しさが続いています。売上額は減少幅がわずかに拡大し、収益は大きく持ち直しました。受注残は幾分改善しています。</p> <p>価格面では、販売価格は前期並の低下基調で推移し、原材料価格は上昇傾向をかなり強めました。在庫は荷もたれ感がやや強まりました。来期の販売価格は厳しさがわずかに和らぎ、原材料価格は上昇が大幅に弱まり落ち着きを見せると予想されています。</p> <p>業況が前期並の厳しさが続いた要因としては、収益では改善しつつも、「売上額が幾分低迷」「販売価格が前期並の下降傾向が続いた」に見られる売上の低迷と、「原材料価格の上昇幅が大きく拡大」が懸念材料になったと考えられます。</p> <p>経営上の問題点は、1 位「売上の停滞・減少」65%、2 位「利幅の縮小」27%、3 位「同業者間の競争の激化」20%、4 位「原材料高」と「販売納入先からの値下げ要請」がともに 19%、5 位「工場・機械の狭小・老朽化」18%となりました。前期と比較しますと、上位 5 位のうち「利幅の縮小」は減少しましたが、他に大きな動きは見られませんでした。</p> <p>重点経営施策では、1 位「販路を広げる」59%、2 位「経費を節減する」57%、3 位「新製品・技術を開発する」28%、4 位「情報力を強化する」20%、5 位「人材を確保する」15%となりました。1 位から 5 位まで前期と同順位になりました。来期の業況は悪化幅がわずかに縮小すると見込まれています。</p>
	来 期		

小 売 業	今 期		<p>小売業全体の主要指標について見ますと、業況は悪化幅がかなり縮小しています。売上額と収益はいずれも減少に大きく歯止めがかかっています。</p> <p>価格面では、販売価格は下降傾向が大幅に改善したものの、仕入価格は上昇幅がかなり拡大しました。在庫は過剰感が若干強まりました。来期の販売価格は今期並の下降が続き、仕入価格は上昇幅がかなり縮小すると見込まれています。在庫は過剰から品薄へと大きく転じると予想されています。</p> <p>業況が大幅に上向いた要因としては、「売上額の大幅な改善」「販売価格の下降傾向が大きく改善」に見られる売上の改善と、それらによる収益の改善が考えられます。</p> <p>経営上の問題点は、1 位「売上の停滞・減少」68%、2 位「同業者間の競争の激化」30%、3 位「利幅の縮小」24%となりました。前期と比較した主な動きは、「同業者間の競争の激化」「店舗の狭小・老朽化」は増加しましたが、「売上の停滞・減少」「商店街の集客力の低下」は減少しました。</p> <p>重点経営施策では、1 位「経費を節減する」53%、2 位「品揃えを改善する」29%、3 位「宣伝・広報を強化する」と「売れ筋商品を取扱う」がともに 25%となりました。</p> <p>来期の業況は厳しさがわずかに和らぐと見込まれています。</p>
	来 期		

経営上の問題点

経営上の問題点（製造業） (%)

	平成23年 1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	平成24年 1～3月期
1位	売上の停滞・減少 72	売上の停滞・減少 66	売上の停滞・減少 71	売上の停滞・減少 67	売上の停滞・減少 65
2位	原材料高 33	原材料高 32	利幅の縮小 29	利幅の縮小 31	利幅の縮小 27
3位	利幅の縮小 27	利幅の縮小 30	原材料高 24	同業者間の競争の激化 20	同業者間の競争の激化 20
4位	同業者間の競争の激化 21	同業者間の競争の激化 21	同業者間の競争の激化 23	販売納入先からの値下要請 20	原材料高 19
5位	工場・機械の狭小・老朽化 18	工場・機械の狭小・老朽化 20	販売納入先からの値下要請 17	工場・機械の狭小・老朽化 18	販売納入先からの値下要請 19

経営上の問題点（小売業） (%)

	平成23年 1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	平成24年 1～3月期
1位	売上の停滞・減少 74	売上の停滞・減少 69	売上の停滞・減少 74	売上の停滞・減少 71	売上の停滞・減少 68
2位	同業者間の競争の激化 29	利幅の縮小 31	利幅の縮小 26	同業者間の競争の激化 24	同業者間の競争の激化 30
3位	利幅の縮小 28	同業者間の競争の激化 28	商店街の集客力の低下 24	商店街の集客力の低下 24	利幅の縮小 24
4位	仕入先からの値上げ要請 19	取引先の減少 23	同業者間の競争の激化 20	利幅の縮小 20	大型店との競争の激化 18
5位	商店街の集客力の低下 16	大型店との競争の激化 18	取引先の減少 18	大型店との競争の激化 19	店舗の狭小・老朽化 17

コメント

製造業

- ①国内取引先の売上減が進行している中、アメリカとの取引の増加方向に動いている。売上については前年比20%増を考えている。(輸送用機械器具)
- ②国内トラック車体生産は活況有り。7月ぐらいまでは高稼働を見込む。(同上)
- ③リーマン後の景気が上昇傾向にあったのが、震災にて一時的に低調になった。復興するにつれて少し動きが出てきている様に思われ、今年は何とか上昇に向かうのではと感じている。現在、見積もりの話が多めに来ている。受注残も出てきている。(電気機械器具)
- ④厳しい状態は続いている。最近高齢化や病気等で廃業する同業者に仕事を依頼していた企業から、当社へ仕事が廻ってくるようになった。(一般機械器具、金型)
- ⑤弊社は官需が多く、震災の影響で予算が決まらず動きが悪かったが、今期は回復の兆しがあり、期待している。(同上)
- ⑥100%受注加工をしており、従来得意先との情報交換や新規顧客を開発していければと思う。景気は、2月頃より低迷している。(金属製品、建設用金属、金属プレス)
- ⑦開発やライン増設に伴う受注が増加しているが、海外向けとなっている。秋以降、国内のライン増設の計画が分からない。(精密機械器具)

小売業

- ①専門分野の強化。原点に戻って、顧客満足。(家具、家電)
- ②商材も揃い、後はいかにこの良い商材を多くの人に知って頂くかが発展のカギである。(同上)
- ③商店街の各店舗の意見が交換できるような場・集まりがあれば、とても良いと思う。災害が来ても、助け合いの出来るような顔合わせが必要だと思う。(飲食店)
- ④商品の少量化による包材費の上昇と、手間が増え、人件費が下がらない。イベントでは集客出来るが、平常の集客が難しい。(飲食料品)
- ⑤売上も下げ止まり、経費削減と荒利益率のアップで、利益が昨年より改善してきた。今後は競合他社の差別化と、圧倒的な商品力で、更なる飛躍を信じて頑張る。(衣服、身の回り品)
- ⑥昨年3月以降は売上が回復しても、低価格、割引商品が主だったが、今年1～3月は高価格の商品を大幅値引きしなくとも販売し易くなって、客単価が上昇している。(同上)

特別調査「平成 24 年度の経営見通し」

問1. 平成 24 年度の日本の景気

(単位: %)

業種	非常に良い	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	非常に悪い
全体	0.0	1.2	13.1	13.1	36.3	26.1	10.2
製造業	0.0	0.6	14.9	16.8	39.8	21.1	6.8
小売業	0.0	2.4	9.5	6.0	29.8	35.7	16.7

問 2. 平成 24 年度の自社の業況見通し

(単位: %)

業種	非常に良い	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	非常に悪い
全体	0.8	2.8	13.8	17.9	33.3	22.0	9.3
製造業	1.2	2.5	17.3	18.5	36.4	16.7	7.4
小売業	0.0	3.6	7.1	16.7	27.4	32.1	13.1

問3. 平成 24 年度の自社の売上額の伸び率の見通し(前年度比)

(単位: %)

	30%以上の増加	20~29%の増加	10~19%の増加	10%未満の増加	変わらない	10%未満の減少	10~19%の減少	20~29%の減少	30%以上の減少
全体	1.6	2.4	6.1	15.0	20.7	18.7	22.8	6.1	6.5
製造業	2.5	2.5	8.0	16.7	22.8	14.8	20.4	7.4	4.9
小売業	0.0	2.4	2.4	11.9	16.7	26.2	27.4	3.6	9.5

問4. 自社の業況が上向く転換点

(単位: %)

業種	すでに上向いている	6か月以内	1年後	2年後	3年後	3年超	業況改善の見通しは立たない
全体	13.1	7.2	18.2	11.4	7.2	2.5	40.3
製造業	16.0	8.3	19.2	14.1	5.1	2.6	34.6
小売業	7.5	5.0	16.3	6.3	11.3	2.5	51.3

問5. 自社の今後の成長・拡大を期待したい分野 (3 つまで回答可)

(単位: %)

業種	環境・エネルギー	介護・医療	健康産業 (食品、機器など)	海外市場 (海外展開、輸出など)	外国人向けビジネス (国内需要向け)	IT関連 (情報通信)	農林水産業	地域活性化・町おこし	その他	特にない
全体	31.1	13.0	11.3	15.5	2.1	8.8	2.9	16.4	9.2	33.6
製造業	38.2	16.6	11.5	21.7	0.6	10.2	3.2	10.2	12.1	28.7
小売業	17.3	6.2	11.1	3.7	4.9	6.2	2.5	28.4	3.7	43.2

問6. 問5の分野に取り組む上での課題や障害 (3 つまで回答可)

(単位: %)

	資金調達	設備投資	人材育成・確保	研究開発	販路開拓	競合他社との競争	業務提携先の確保	関連情報の入手	円高等為替変動	その他	特にない
全体	29.3	26.1	38.9	15.3	43.3	28.7	10.8	9.6	16.6	4.5	4.5
製造業	28.6	25.9	37.5	19.6	46.4	23.2	12.5	10.7	23.2	3.6	3.6
小売業	31.1	26.7	42.2	4.4	35.6	42.2	6.7	6.7	0.0	6.7	6.7

概況

平成 24 年 3 月の都内中小企業の業況 D I（業況が「良い」とした企業割合－「悪い」とした企業割合）は－30 となり、前期に比べて 8 ポイント改善しました。今後 3 か月（平成 24 年 4～6 月）の業況見通し D I では、今期比 15 ポイント増の－15 と厳しさが大きく和らぐと見込まれています。

製造業

前期（23 年 12 月）と比較すると、業況は水面下ながら大幅に改善し、売上高もかなり持ち直しました。

価格面では、販売価格は前期並の下降が続き、仕入価格はわずかに上昇傾向を強めました。

業種別に見ますと、「住宅・建物関連」は特に大きく改善し、「一般・精密機械等」「材料・部品」「衣料・身の回り品」「その他」は大きく持ち直しました。「紙・印刷」はわずかに上向きしました。「電気機器」は前期並の悪化幅で推移しました。

今後 3 か月の見通しの業況は厳しさがかなり和らぎ、売上高は減少幅がやや拡大すると予想されています。

小売業

前期（23 年 12 月）と比較すると、業況は前期同様の厳しさが続きました。売上高はわずかに回復の兆しが見られました。

価格面では、販売価格が下降傾向を若干強めました。仕入価格は大幅に下降に転じ良好感が出ました。

業種別に見ますと、「余暇関連」は特に大幅に上向きしました。一方、「耐久消費財」は極端に低迷し、「衣料・身の回り品」はかなり悪化が強まり、「食料品」と「日用雑貨」も低調感を若干強めました。

今後 3 か月の見通しの業況は悪化幅が極端に縮小すると予想されており、売上高は減少に大きく歯止めがかかると見込まれています。

この調査についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

大田区産業経済部産業振興課

TEL : 3733-6181 FAX : 3733-6103

E-mail : sangyo@city.ota.tokyo.jp